

第1章 貝塚文化のアウトライン

1 琉球貝塚文化の視点……………12

2 貝塚文化をとりまく環境……………17

3 サンゴ礁が育んだ貝塚……………22

4 「貝塚人」のなりたち……………42

5 貝塚文化のタイムライン……………46

第2章 貝塚文化研究のあゆみと視点

1 貝塚文化研究の嚆矢……………64

2 米軍統治下での学術研究……………71

3 貝塚時代の編年と研究の進展……………78

第3章 貝塚文化の成立と展開

1 貝塚文化前史——琉球の旧石器文化……………86

2 貝塚時代の幕あけ……………92

3 貝塚文化の隆盛……………102

第4章 海を越えた交流

4 貝塚人のくらし……………112

5 葬墓制と貝塚人のコスモロジー……………127

6 奄美群島・先島諸島の文化的特色……………140

1 琉球のアウトバウンド・コネクション……………156

2 琉球の域内サプライ・チェーン……………168

3 弥生貝交易の時代……………176

4 古代ヤコウガイ交易……………205

第5章 貝塚文化の終焉

1 拡張する中世世界……………212

2 変容する文化、継承される文化……………223

エピローグ——島世界の過去・現在・未来……………232

北海道・本州・九州・琉球の時代区分……………241

貝塚文化のおもな遺跡……………242

主要参考文献……………244

プロローグ——貝塚文化とはなにか

琉球貝塚文化とは、約一万年前から約一〇〇〇年前までのおおよそ九〇〇〇年間、琉球（奄美群島・沖縄諸島）の島々に展開した狩猟採集文化をさす（沖縄県立博物館・美術館二〇二二）。なお、同時期の先島諸島（宮古諸島・八重山諸島）には、貝塚文化とはやや異なるが、これに近縁な狩猟採集文化（下田原文化・無土器文化）が分布していた。

琉球という呼称は、奄美群島・沖縄諸島・先島諸島が、一四世紀にはじまり明治時代までつづいた琉球王国の版図だったことに由来するが、そもそも「琉球」にはさまざまな意味あいがある。

奄美群島・沖縄諸島・先島諸島（奄美大島から与那国島にいたる島々）をふくめて琉球と呼称する場合、その範囲は一六世紀ごろの琉球王国の最大版図にほぼ一致する。言語や文化、人類集団などの面からみても、日本本土とは一定の差異が認められることから、「琉球文化圏」と呼称されることもある（富良一九八七）。なお、現在沖縄県にふくまれる尖閣諸島や大東諸島に人が定住するようになったのは、近代以降のことである。

一六〇九年の薩摩藩の琉球進攻以降、奄美は薩摩の直轄地となったため、歴史学の分野では奄美群島をふくめず、「琉球」を近世琉球王国の版図（沖縄諸島・先島諸島）に限定して用いることが多い。これは近現代の沖縄県の範囲とほぼ一致する。

戦後、奄美・沖縄を占領したアメリカ軍は、これらの島々を琉球諸島（Ryukyu Islands）と総称したが、日本の定義では、琉球諸島とは大東諸島を除く沖縄県の範囲と定められている。

また、自然科学の分野では、九州と台湾のあいだに約一一〇〇kmにわたって連なる島弧を琉球弧、海上に点在する島々を琉球列島と呼称することが多い。

本書では、奄美群島と沖縄諸島、先島諸島をあわせた地理的範囲を「琉球」と呼称し、九州と台湾のあいだの列島全体をさす用語として「琉球列島」を用いることにしたい（図一）。

なお、琉球列島に類似した地理区分として「南西諸島」という用語もある。南西諸島は、日本の領域の特定の範囲をさす概念であり、琉球列島に加えて尖閣諸島と大東諸島をふくめた島々をさす。また、「薩南諸島」という呼称もあり、これは琉球列島のうち大隅諸島からトカラ列島、奄美群島までの鹿児島県に属する島々をさす。

貝塚文化の特徴である狩猟採集とは、野生の動植物を利用するくらしのことをいう。より端的には、人がまだ自然の一部だった時代といってもよいだろう。

日本の狩猟採集文化としては、縄文文化がよく知られている。琉球の貝塚文化も、年代的には縄文文化と重なりをもち、まったくの異文化というわけではなく、相互に重なりあう部分も多い。とくに土器は、器形や文様において縄文土器との共通点が多く認められる。ほかに、弓矢や磨製石斧（せきふ）を使用し、イヌを飼い、竪穴住居に定住し、貝塚を営む、といった縄文文化を特徴づける基本的な文化要素が、北海道から沖縄まで広く共有されていたことも事実である。

一方で、琉球の貝塚文化には、縄文文化にはみられない独自の特徴も多く認められる。のちのグスク文化や琉球王国成立のバックグラウンドとなったという点でも、歴史的に重要な意義をもつ。

たとえば、貝塚文化には、縄文文化で広く用いられた土偶や石棒はなく、縄文土器の大きな特徴である縄目の文様「縄文」も採用されなかった。一方で、亜熱帯の気候・環境に適應した貝塚文化では、サンゴ礁の魚介類利用が活発で、食べ物としてはもちろんのこと、さまざまな道具の材料として、サンゴ礁の生物に由来

する貝殻や骨が用いられた。蝶形骨製品やヤコウガイ製品、シャコガイをとまなう埋葬人骨など、骨や貝に対するシンボリズム（象徴性）の発達が顕著であり、特色ある文化や風習が認められる。

そもそも、海に囲まれた島国である日本では、古来、人と海との関わりは緊密であり、それを物語る遺跡の代表例が貝塚である。貝塚というのは古代の人びとが食べた貝類の殻が積み重なった遺跡のことで、地表からも目立つので遺跡として認識されやすい。

貝塚 (shellmound) という用語は、文字どおり貝殻が積み重なった場所をさすが、日本列島では貝殻が山をなすほど積み重なった貝塚はまれで、たいていは数十cmから数m程度の厚さである。規模は、直径一〇〇mを超える環状・馬蹄形貝塚が二つ接続した加曽利貝塚（千葉市）や、幅約一〇〇m、長さ約五〇〇m、貝層の厚さは最大約四・五mに達する中里貝塚（東京都北区）のように非常に大規模なものもあれば、小規模な地点貝塚とよばれるようなものもある。琉球の貝塚は概して小さく、貝層の分布範囲は数m〜数十m程度のものが多い。北海道から沖縄まで、日本には四〇〇〇カ所を超える貝塚があつて、世界的にみても有数の貝塚密集地帯である。また、貝塚の調査研究がさかんな地域でもある。

ただし、貝塚の分布には粗密があり、とくに太平洋側の東京湾や霞ヶ浦（現在は淡水化しているが、かつては入り江だった）、仙台湾、瀬戸内海沿岸部には多くの貝塚が存在する。日本の都道府県のうち最も貝塚を多く擁するのは千葉県で八六七カ所、二番目は茨城県で三八一カ所、

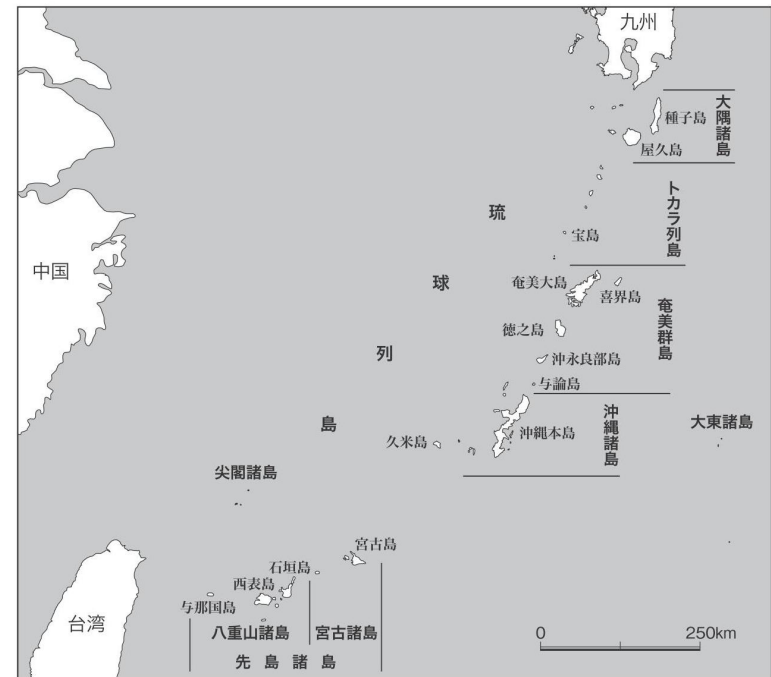


図1 琉球列島の地理的位置

そして三番目は沖縄県で三四三カ所とつづく〔文化庁二〇二二〕。

利用された貝の種類は、海産だけでなく淡水産や汽水産のものもあって、バラエティに富む。なお、琉球の貝塚では陸産貝類も多くみられるが、これらが人類の食料だったかどうかは議論がある。遺跡数のうえで多いのは海産・汽水産の貝類からなる貝塚で、淡水性の貝塚はまれである。

海産か淡水産かを問わず、貝殻には炭酸カルシウム（ CaCO_3 ）が多くふくまれ、アルカリ分に富む。地質学的には、日本列島の表層地質は火山灰などからなる酸性土壌に広く覆われているため、多くの遺跡では骨や貝といった有機質遺物は埋没中に朽ちてしまう。しかし、貝塚では、貝殻のアルカリ分によって、貝殻だけでなく動物の骨や人骨なども保存されやすい。土器や石器といった無機質遺物のみが見つかる遺跡に比較して、貝や骨も保存される貝塚は情報量が多く、考古学的に貴重である。

端的にいうと、貝塚は人類が水産資源（貝類資源）にアクセスしたエビデンスが、良好な状態で保存された遺跡である。

時代別にみると、貝塚がもっとも多く残されたのは狩猟採集を生業の基本としていた縄文時代であり、大半の貝塚は縄文時代に属する。水稻栽培にもとづく農耕が生業の基盤となった弥生時代以降は、貝塚の数は減少する。その原因はいろいろと考えられるが、農耕に専従する人の割合が増え、魚介類を採取する人の割合が減少したことが背景にあるようだ。狩猟採集から農耕へ、という生活スタイルの変化は、遺跡の内容にも大きな変化をもたらしたといえる。

琉球では、農耕の開始が九州・四国・本州より一五〇〇〜二〇〇〇年ほど遅く、その分、狩猟採集の時代が長かった。海に囲まれた島という環境のなかで、人びとのくらしと海とは、分かちがたいほど密接に結びついていたといえるだろう。

琉球のうち、奄美群島を除いた沖縄県の面積は日本全体のわずかに〇・六％に過ぎないが、海岸線の長さは北海道、長崎県、鹿児島県につづく第四位（二〇三七㎞）である。また、沖縄県の貝塚三四三カ所に対して県内の遺跡総数は三八六一カ所であり、じつに八・八％が貝塚で占められている〔図2〕。これほど高頻度で貝塚が存在する地域はほかにない（第二位は宮城県

で五・〇％）。琉球に、いかに貝塚が多く残されたかがわかる。

これほど多数の貝塚を残した琉球の貝塚文化とは、どのような文化だったのだろうか。

これまで貝塚文化は縄文文化にふくめて扱われることが多く、貝塚文化を主題に掲げた概説書は執筆されてこなかった。本書では貝塚文化の展開と特質を改めて見つめ直し、とくに縄文文

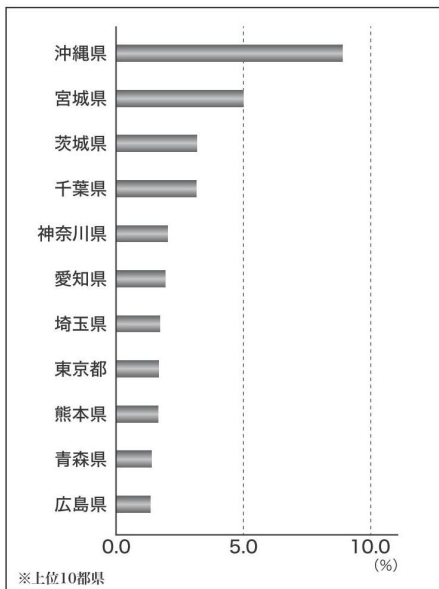
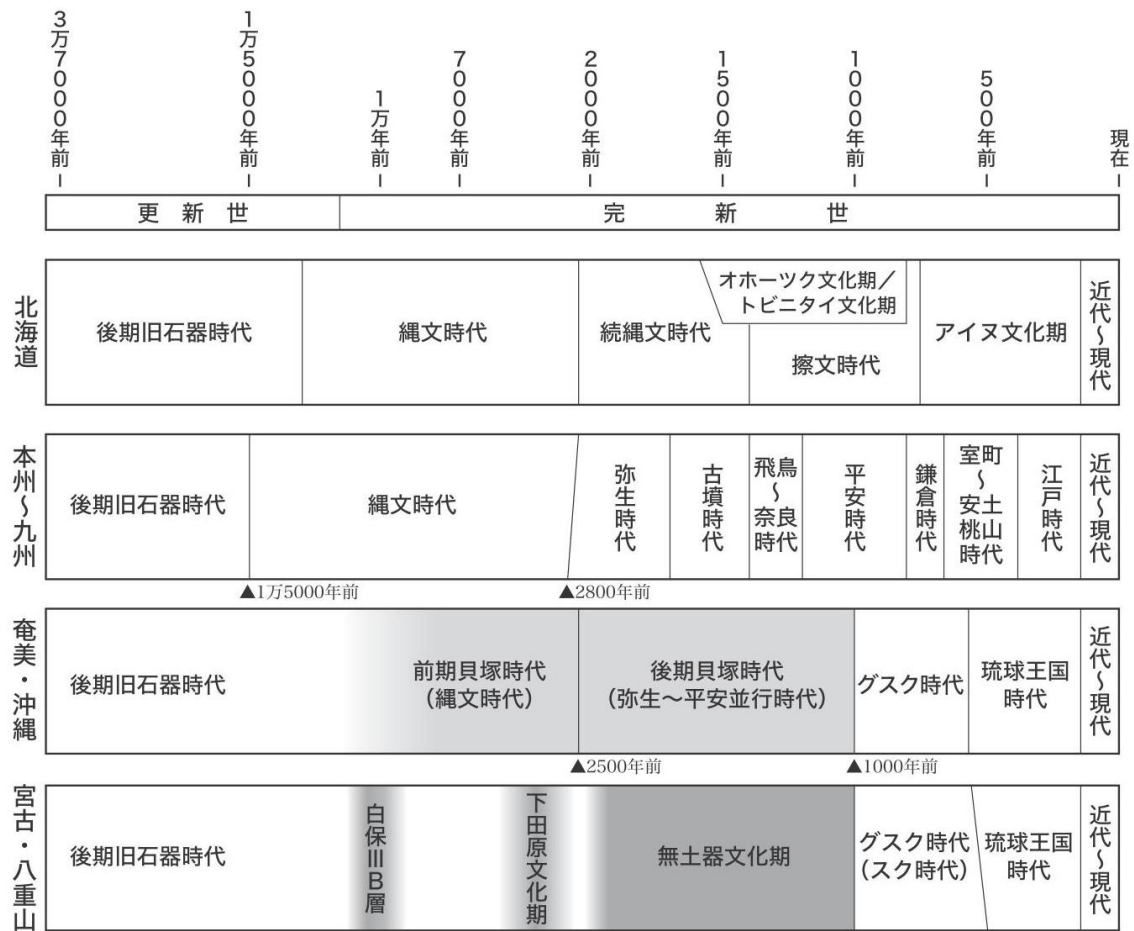


図2 都道府県別の総遺跡数に占める貝塚の割合
〔文化庁 2022「令和3年度 周知の埋蔵文化財包蔵地数」にもとづき作成〕

化や弥生文化との異同についてフォーカスをあてる。本書が、日本列島の先史文化の多様性を映し出す「鏡」となれば幸いである。

北海道・本州～九州・琉球の時代区分



【奄美大島】

- ① 土盛マツノト遺跡
- ② 宇宿貝塚
- ② 宇宿小学校遺跡
- ③ 長浜金久遺跡
- ④ ウフタⅢ遺跡
- ⑤ 小湊フワガネク遺跡群
- ⑥ 嘉徳遺跡

【喜界島】

- ⑦ 喜界町総合グラウンド遺跡

【徳之島】

- ⑧ 下原洞穴遺跡
- ⑨ 犬田布貝塚
- ⑩ 面縄貝塚群
- ⑪ トマチン遺跡
- ⑪ 喜念貝塚

【沖永良部島】

- ⑫ 住吉貝塚
- ⑬ 神野貝塚

【沖縄本島】

- ⑭ カヤウチバンタ貝塚
- ⑮ 西長浜原遺跡
- ⑯ 安和与那川原遺跡
- ⑰ 前原遺跡
- ⑰ 前原貝塚
- ⑱ 吹出原遺跡
- ⑲ 中川原貝塚
- ⑳ 渡具知東原遺跡
- ㉑ 木綿原遺跡
- ㉑ 古我地原貝塚
- ㉒ 伊波貝塚
- ㉓ 天願貝塚
- ㉓ 宇堅貝塚群
- ㉔ 地荒原貝塚
- ㉕ 平敷屋トウバル遺跡
- ㉖ 室川貝塚

⑫ 馬上原遺跡

- ㉗ 萩堂貝塚
- ㉘ 野国貝塚群
- ㉙ クマヤー洞穴遺跡
- ⑳ 伊礼原遺跡
- ⑳ 伊礼原 E 遺跡
- ⑳ 平安山原 A 遺跡
- ⑳ 平安山原 B 遺跡
- ㉑ 大山貝塚
- ㉒ 真志喜安座間原第一遺跡
- ㉒ 真志喜安座間原第二遺跡
- ㉓ 浦添貝塚
- ㉔ 牧港貝塚
- ㉔ 嘉門貝塚
- ㉔ 城間古墓群
- ㉕ 崎樋川貝塚
- ㉖ 城嶽貝塚
- ㉗ 山下町第一洞穴遺跡
- ㉘ 米須貝塚
- ㉙ 港川遺跡
- ㉚ サキタリ洞遺跡
- ㉚ 武芸洞遺跡
- ㉚ 宇和川原半洞穴遺跡
- ㉛ 新原貝塚
- ㉛ 百名第二貝塚
- ㉜ 熱田原貝塚

【伊江島】

- ㉛ 浜崎貝塚
- ㉜ 具志原貝塚
- ㉝ ナガラ原第三貝塚

【屋我地島】

- ㉞ 大堂原貝塚

【伊計島】

- ㉟ 仲原遺跡

【宮城島】

- ㊱ シヌグ堂遺跡

【藪地島】

- ㊱ 藪地洞穴遺跡

【久米島】

- ㊱ 北原貝塚
- ㊱ 大原貝塚
- ㊱ 清水貝塚

【伊是名島】

- ㊱ 伊是名貝塚

【具志川島】

- ㊱ 具志川島遺跡群

【宮古島】

- ㊱ 長墓遺跡
- ㊱ 長間底遺跡
- ㊱ 浦底遺跡
- ㊱ アラフ遺跡

【多良間島】

- ㊱ 多良間添道遺跡

【石垣島】

- ㊱ 川平貝塚
- ㊱ 大田原遺跡
- ㊱ 神田貝塚
- ㊱ 白保竿根田原洞穴遺跡

【西表島】

- ㊱ 仲間第一貝塚
- ㊱ 仲間第二貝塚

【波照間島】

- ㊱ 下田原貝塚
- ㊱ 大泊浜貝塚

【与那国島】

- ㊱ トウグル浜遺跡

貝塚文化のおもな遺跡

